

目的：前年度の本大会においては、女子学生の好きな通学服、嫌いな通学服を規定する要因について報告した。今回は、女子学生の通学服のイメージ構造を明らかにするとともに学業成績（順位群別）、出身高校（公私）を目的変数とし、他の要因との検討を試みた。

方法：調査項目は、通学服の嗜好性、通学服のイメージ、通学服に対する態度、ファッションの採用時期、小遣いの額と出所、出身高校等である。なおイメージ調査は、19組の形容詞対を用い、SD法により5段階評価を行った。その結果から因子分析を行い因子構造を明らかにする。また因子得点および先の項目の集計結果を要因とし成績を外的基準として数量化I類で要因分析を行い、要因を明らかにする。被験者は、女子短大生175名である。

結果：単純集計より、女子学生はファッションの採用は早期で、通学服は「自分に似合った服装をすべきである」と考えているようである。1ヶ月の小遣いは2～4万円で、その出所はアルバイトと親からの両方である。通学服の購入は主としてアルバイトの収入からである。私立高校の出身が53.3%、学年は2年生が63.4%であった。通学に着る服のイメージ評価の高い形容詞は「すっきりした」「楽しい」であり、魅力的で華やいだイメージの服を通学に着用しているようである。（5因子・60.4%）また数量化I類の結果より成績を外的基準にして説明できる要因は、出身高校、好きな通学服は「色柄が気に入っている」通学服は「毎日着替えて行くのが楽しい」が認められた。なお重相関係数は、 $r=0.7949$ ($p<0.01$)で正の相関が認められる。外的基準を出身高校にすると、私学出身のほうが通学服は、「流行の服をできるだけ着て行きたい」で、「小遣いの額」は高かった。 $r=0.7806$